



「県政改革！」 県議会レポート



野田たけひこ

千葉県議会議員 野田たけひこ事務所
〒274-0077 船橋市薬円台6-6-8 TEL&FAX 047-464-9333
E-mail nodatake@shunzankai.com HP http://www.shunzankai.com/

いつも大変お世話になっております。皆様のご支持、ご支援により県議会にお送り頂き、早3年の月日が経ちました。お陰様で、これまで多くの提言を実現してきましたが、今年2月26日、県議会本会議に登壇の機会を得て、また多くの提言を致しましたので、その一部についてご報告させていただきます。これからも皆様と同じ視点から「県政改革」を推し進めていく所存ですので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程宜しく申し上げます。

医療・福祉問題について



1 「がん患者医療用補正具助成事業」について

国立がんセンターによりますと、わが国では1年間におよそ5万3,000人の女性が乳がんと診断され、また40歳から50歳の乳がん発生率は、この20年間で約2倍に増加しているとのこと。

そして、多くの女性が乳がんとの診断を受け、がんサバイバーとして、まさに様々な課題に直面しています。たとえば乳がんによって乳房を全部摘出しなければならなかった女性の、病への恐怖、心の不安、体の苦痛、気持ちの葛藤、さらに乳房を失う悲しみはいかばかりでしょうか。また「髪は女性の命」という言葉もありますが、抗がん剤の影響によって髪が抜け落ちてしまった女性の悲しみも、男性にはわかり得ないものなのでしょう。

若くして乳がんを発症し、乳房を全部摘出したり、また抗がん剤の影響により髪が抜けてしまった女性のブログには「人目を気にせず温泉に入りたい。かわいい水着を着たい。人目を気にせず買い物を楽しみたい」との書き込みがありました。やはり若くして乳がんを発症した別の女性のブログには「メイクやおしゃれを楽しむことは、がん患者であることを隠すためではなく、なりたい自分になることであり、それは、がん治療中の生きる糧にもなる」との書き込みがありました。

行政はそのような、がんサバイバーの思いに応えることができるのでしょうか。鳥取県や秋田県などでは、ささやかなものですが、そのようながんサバイバーの思いに応えようとしています。秋田県では昨年より、がん治療と就労や社会参画の両立、購入に伴う経済的負担の軽減を図ることを目的として、がんの治療に伴い医療用補正具を使用する方に対して、購入費用の一部を助成する「がん患者医療用補正具助成事業」を立ち上げました。そして、その事業では、装着型の人工乳房や医療用ウィッグの購入の際に、補助金が出ます。

「がん患者医療用補正具助成事業」を本県においても、立ち上げるよう強く要望致します。

答 弁 要 旨

今後、がん患者やがん経験者の生活の質の向上に向け、がん対策審議会等の意見も聞きながら、どのような施策が効果的か、国の動向や他の自治体の取組も参考に検討してまいります。

2 「ヘアドネーション」について

全国で毎年約2,500人の子どもが小児がんを発症し、現在約1万6,000人の子どもが小児がんと闘っています。そして、その子たちの多くも抗がん剤の影響により髪が抜け落ちています。小児がんに限らず、無毛症や先天性の脱毛症、不慮の事故などで髪を失った子どももたくさんいます。その子たちは、病や事故、入院や治療過程での痛みや苦しみと戦い、病室の孤独にも耐え、また髪が抜け落ちる過程での精神的ショックを乗り越えるという辛い経験をしてきました。そして、髪がないことで、周囲の配慮を欠いた視線も意識してきました。

そのような子どもたちが笑顔を取り戻せるようにと、医療用フルオーダーウィッグを無償提供しているNPOが全国にいくつかあります。そのウィッグは一般の方々から、髪の寄付を受けて作成されますが、この髪の寄付のことを『ヘアドネーション』といい、県内にもヘアドネーションを受け付けている理美容院が多数あります。

1人の子どもにウィッグを贈るのには、20人から30人分の、31センチ以上の髪が必要となりますが、ヘアドネーションによる髪がなかなか集まらないため、ウィッグを待ち望んでいる子どもたちが大勢いるにもかかわらず、希望に応えられないという現状があります。ウィッグを待ち望んでいる子どもの中には、2年以上も待っている子もいます。

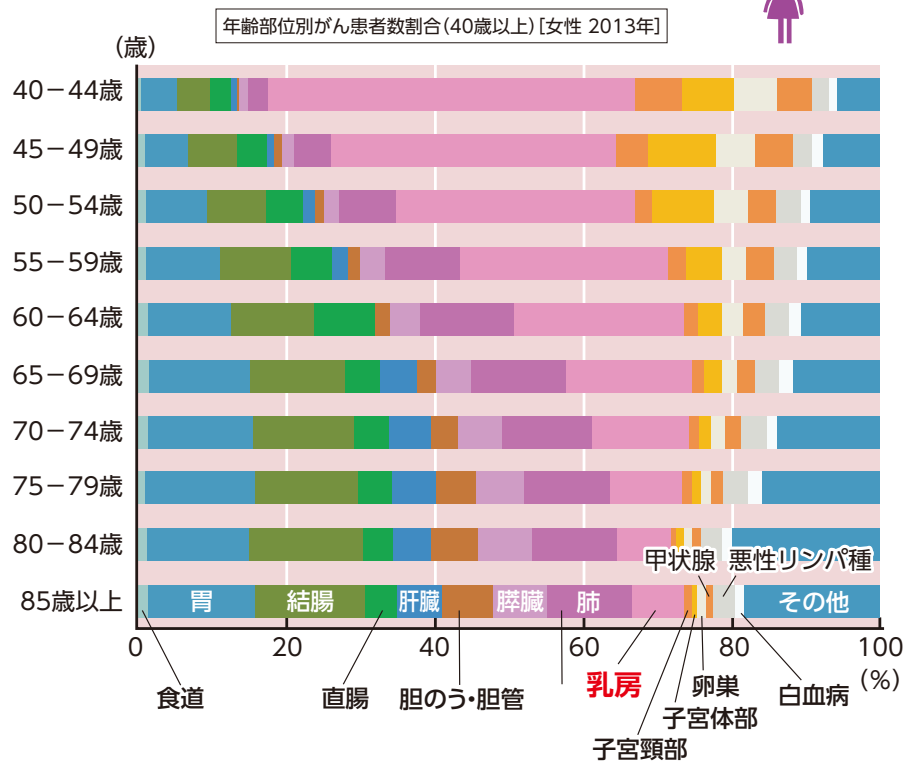
本来ならば、いろいろな髪型が個性として認められ、髪がないことも1つの個性として受け入れられる、そのような成熟した社会が望ましいのですが、残念ながら髪がないことは、からかひや、いじめの対象となりがちです。

子どもたちが、人目を気にせず子どもらしく、元気に公園を走り回れるようにするために、ヘアドネーションの善意の輪を広げていく必要があると考えます。少女の写真をご覧下さい。このような少女のささやかな夢に応えようではありませんか。

答 弁 要 旨

県内には、ヘアドネーションを扱うNPO団体に協力し、髪の毛の提供を行っている理美容店が100以上あると承知しております。県としては、今後、ヘアドネーションの活動実態や他県の取組等について、情報収集に努めてまいります。

どの部位のがん罹患が多いか年齢による変化



(資料：国立がん研究センターがん対策情報センター)

2月15日は国際小児がんデーです。鏡に写った自分に髪の毛を描く少女



(がんの少女が望む夢 フリー画像より)

「ウィッグにできる髪の毛の条件」

- ◆31センチ以上の長さがある
(ただし、31センチ以下の髪の毛も、31センチに満たない場合も、無駄になることはありません。)
- ◆引っ張ると切れてしまうほどにダメージがなければ大丈夫
(パーマ、カラー、ブリーチをしていてもOK!)
- ◆くせ毛などの髪質、年齢、性別、国籍などは問いません!
- ◆完全に乾いた髪の毛
(濡っている髪の毛は、カビや雑菌が繁殖する可能性があります。他の方の毛束にも影響する恐れがあります。)



「千葉県地震防災戦略」について



「平成26・27年度 千葉県地震被害想定調査」によりますと、千葉県北西部直下地震が起きた場合、**県下最大の被害が想定されているのが船橋市**です。県内で揺れによる建物全壊は約5万3,200棟で、そのうちの**28%の約1万5,200棟は船橋市**。また、火災による建物焼失は約2万6,200棟で、そのうちの**35%の約9,400棟は船橋市**であると想定しています。死者数も約2,100人出るとしていますが、そのうちの実に**30%の約650人が船橋市**であると想定しています。この調査等を受けて、昨年7月に改訂された「千葉県地震防災戦略」では、「想定される死者数 約2,100人、経済被害額 約9兆6,500億円を10年間で概ね半減させることを目標にしています。

1 海岸保全施設の早期整備について

船橋市の海岸保全施設は、設置から40年以上が経過し、老朽化による劣化が著しい状況です。東日本大震災の時には、周辺地盤の液状化、護岸の損傷等の被害が発生しましたが、今もって、水門や排水機場を含む海岸保全施設の多くが耐震化されていません。

今後、高い確率での発生が予想されている千葉県北西部直下地震や南海トラフ地震などの巨大地震に伴う津波、また昨今被害が甚大化している台風に伴う高潮への対策の必要性が従来以上に高まっており、内陸部への浸水を防ぐには、船橋市の中心部を流れる海老川の水門などの海岸保全施設が、的確に機能することが肝要です。**災害対策本部が設置される市役所と、その際に最前線で活動することとなる消防職団員の司令塔になる中央消防署**、また避難や救助、物資の供給などに欠くことのできない**千葉県緊急輸送道路に位置づけられている国道14号線**などの位置と、早期整備が求められている海岸保全施設の位置を見比べてれば、なぜ早急に耐震化・老朽化対策をしなければならないか判ると思います。この地域が被害を受けると、半島である千葉県の災害からの救難、復旧などにも甚大な影響を及ぼしかねません。

ゼロメートル地帯を抱える**千葉港海岸船橋地区の海岸保全施設の耐震化・老朽化対策の取り組み**のペースを早めるべきではないでしょうか。

答 弁 要 旨

耐震化及び老朽化対策の進捗を図るため、必要な予算の確保と、早期の直轄事業化について、国への重点要望や港湾関係者で組織する千葉県港湾整備促進協議会を通じて、国へ働きかけてまいります。

事業の必要性に関する視点



(千葉県HPより)

平成30年2月26日
本会議 登壇



2 「感震ブレーカー」について

内閣府によりますと、**地震後の火災の過半数が通電火災によるもの**とされています。通電火災とは、大規模な地震などに伴う停電が復旧し、通電が再開される際に発生する火災のことをいいます。たとえば、電気ストーブ等の電熱器具を使用中に、揺れの影響で可燃物がヒーター部分に接触した状況になることがあり、復旧した際に、それらの器具が再度通電することによって、可燃物が過熱されて出火に至ります。また、揺れの影響で配線被覆が傷付き、復旧した際に配線がショートして付近のほごりに着火したり、漏れたガスに引火して火事になった事例もあります。この**通電火災を防ぐのに有効だとされているのが、揺れを感知すると自動的にブレーカーを落とす感震ブレーカー**です。

国は2024年度までに密集市街地における感震ブレーカーの設置率を25%とする目標を掲げていますが、現状の設置率は、わずか数%です。県は昨年、県民1432人を対象に、感震ブレーカーについての認知度や設置状況をアンケート調査しました。調査には感震ブレーカーを設置しない理由をたずねる設問もありましたが、設置しない理由で1番多かったのは「自己負担の費用がかかるから」という回答でした。この回答からも助成制度創設の必要性が読み取れます。

感震ブレーカーの周知や、普及促進に尚一層尽力すべきこと。**感震ブレーカーへの購入、設置への補助金制度を設けるべきこと**等を県に求めました。

答 弁 要 旨

地震や火災などに対する日ごろからの備えを掲載した「千葉県ポータルサイト」に、通電火災の危険性と感震ブレーカーの効果を盛り込むなど、SNSも活用して一層の普及に取り組んでまいります。

「感震ブレーカー」タイプ別の特徴

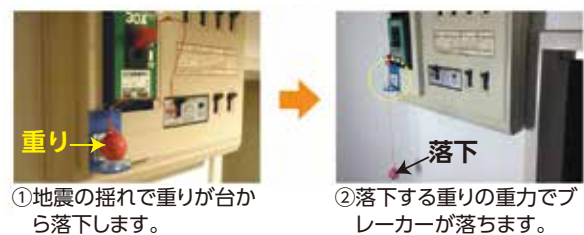
(1)分電盤タイプ

分電盤に一定の震度を感知して電気を遮断する機能が付いたもので、基本的には全ての電気が遮断されます。取り付けには工事が必要です。揺れを感知してからブレーカーが落ちるまでに時間的猶予を持たせているものが多く、その時間を使って避難などを行うことができます。また、地震による停電が発生した際には、電気が復旧した時にブレーカーが遮断されます。電気器具が倒れていないか等の安全を確認してからブレーカーを戻すことにより、通電火災を防ぐことができます。



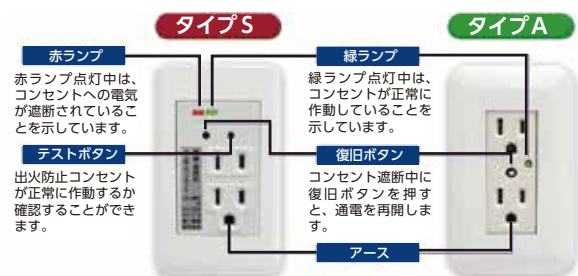
(2)簡易タイプ

ブレーカーに直接とりつけるもので工事の必要はありません。一定の震度により『おもり』の玉が落下することでスイッチを落とし、住宅内全ての電気を即座に遮断します。工事の必要はありません。



(3)コンセントタイプ

コンセントに差し込むタイプと、既存のコンセントと取り換えて埋め込むタイプがあります。個別のコンセントの電気を遮断することができるため、電気ストーブや観賞魚用ヒーターなど熱を発する器具を接続する箇所が適しています。差し込むタイプは、工事が不要ですが、既存のコンセントと取り換える埋め込みタイプは工事が必要です。



以上、今後も皆様のご期待にお応えすべく、全力で頑張る所存です。ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。